



●日本色彩学会への寄付金募集開始

日本色彩学会は、学会のホームページ上に学会への寄付金を募集するために、**<ご寄付のお願い>**のバナーを掲載いたしました。

「会員の皆様におかれましては、日頃より学会活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。日本色彩学会では、ご寄付いただける個人または団体の方々を広く募集しております。学会ホームページにご寄付のお願いのバナーを掲載いたしました。本会の活動にご賛同を賜り、皆さまのご支援をお願い申し上げます。」という内容のお願いです。

◆<https://color-science.jp/>

「ご寄付のお願い」から「寄付金申込書」を開き、記入して送信すれば、学会から、「寄付金お振込口座のご案内」が郵送されますので、寄付金額をゆうちょ銀行に振込ます。

◆寄付のお申込み・お問い合わせ先：

一般社団法人日本色彩学会

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南

1-16-9 平野ビル3階

TEL：03-5913-7079

FAX：03-5913-7079

Email：office@color-science.jp

活動活発化のための寄付をお願いします。

(学会メールニュースNo.449から引用)

●色彩データ・ライブラリの活用-2

今回、私は中国の芸術大学で、シュブルールについて講義をしたいと思い、「色彩データ・ライブラリ」からシュブルールのもや色彩の対比現象に関するデータを、学会事務局にメールで依頼して送っていただきました。

講義の組み立て方は、ストーリー性を出すように考え、シュブルールはどんな人だったのか？、何を研究した人なのか？、なぜその研究をしたのか？、などをまとめて見ました。

シュブルールは、ゴブラン織の工場長をしていた時に、製品には問題が無いのに、色がくすんで見えるというクレームをもらった事が研究のきっかけになり、色の対比という研究テーマを追求しました。

そこで、心理的な方法を取り、色彩の対比から、隣にくる色の影響を受ける錯視の現象を見つけました。

そこで、私の講義では、錯視、同化、色相対比、明度対比、縁辺対比などのデータを探し出し、さらに、スーラーの絵画を取り入れて、点描画も、まさに隣りあう色からの影響で目の中での混色が起こる併置混色の原理で描かれている事なども取り入れて、中国語のパワーポイントに作り直して、教室で使い、解説を致しました。

(田森恭子)

●大辞泉ひろいよみ 42 一か

襲の色目：春・梅＝表白・裏蘇芳。春・柳＝表白・裏萌黄。春・山吹＝表朽葉・裏黄。夏・棟＝表薄紫・裏青。秋・女郎花＝表黄・裏萌黄。秋・菊＝表白・裏紫。秋・萩＝表蘇芳・裏萌黄。冬・椿＝表蘇芳・裏赤。四季通用・松重＝表萌黄・裏紫。四季通用・胡桃色＝表香・裏白。

可視光線：人間が肉眼で感じることのできる光線。波長が380～770ナノメートル程度で、太陽光線や電気の光などがこれに含まれ、波長の長短によって赤から青紫まで、色の感じ方が違ってくる。

画集：絵画を集めた本。

画障：絵のかいてあるふすま。

画帖：絵をあつめた折り本、または、とじ本。画集。絵をかくための帳面。画帳。スケッチブック。

黄鶏：かしわ。羽色が茶色の鶏。また、その肉。転じて、鶏の肉。

糟毛：かすげ。馬の毛色の名。灰色に少し白い毛がまじっているもの。

花青素：かせいそ。アントシアニン。

画素：電送写真・テレビなどの、画面を構成する最小単位。ピクセル。

*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)